

いろいろな
繊維と
私たちの
暮らし

皮革の特徴と取り扱い方

吉村 圭司 Yoshimura Keiji 一般社団法人日本皮革産業連合会 事務局長
1983年4月～2018年3月まで東京都立皮革技術センター勤務。2018年4月より現職。
東京農工大学農学部 客員教授、NPO法人日本皮革技術協会 副理事長

はじめに

革は、太古の昔から汎用性^{はんよう}が高く、耐久性のあるリサイクル素材として、幅広い用途で利用されてきました。

皮は、そのままでは腐敗するため、「皮」を「革」に変換する「なめし技術」が創意工夫されてきました。革は動物の皮膚の構造をそのまま利用するため、強度や吸放湿性などの特性・機能は、動物の種類、年齢、性別などにより異なります。

一方、革を模倣した**合成素材**は、プラスチックから作られたもので、大別すると「塩ビレザー」「合成皮革」「人工皮革」があります。

また、レザー(leather、革、皮革)という用語は、動物由来のものを指しますが*1、用語の乱用も散見され、ヴィーガンレザーやネオレザーなど、レザーと表示があっても、合成素材である可能性もあり注意が必要です。

革(leather、レザー、皮革)の特徴

革の長所としては、外観、風合いがよく、高級感がある、耐久性がある、耐摩耗性がある、吸放湿性・透湿性に優れる、適度な塑性^{そせい}と弾性のため、からだになじむ、難燃性が高いなどが挙げられます。短所は、重い、色落ちがしやすい、カビが発生しやすいなどです。

革は動物の種類、仕上げの種類、なめしなどによって分類されますが、本稿では、前二者について解説します。

●動物の種類による分類

主に使われるのは、家畜動物です。

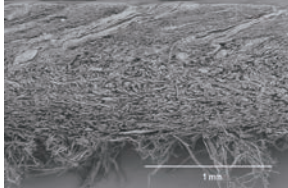
牛革：成牛革は全般的に大判で厚く、強度・耐久性に優れ、最も使われる素材です。カーフ(子牛の革)は、銀面(革の表面)のきめが細かく、平滑^{へいかつ}で傷が少なく高級品とされています。

羊革：ヘアシープとウールシープ*2に大きく分けられます。ウールシープは強度が不足する場合がありますので注意が必要ですが、柔らかい革で、衣料品や手袋などによく使われています。

成牛革の断面写真



羊革の断面写真



山羊革^{やぎ}：耐摩耗性、強度に優れ、靴、衣料品、バッグなどによく使われています。

豚革^{ちみづ}：繊維構造は緻密で耐摩耗性や通気性に優れ、靴やバッグの裏革などに多く使われています。

●仕上げの種類による分類

銀付き革：動物皮の本来の銀面模様を生かした仕上げで、革本来の銀面を完全に保持していることが特徴です。ほとんど塗装をしていない「素上げ革」、顔料を使用せず染料のみで透明感を出す仕上げの「アニリン革」、顔料を使用し、染料で透明感を出す「セミアニリン革」、顔料を多く用いて仕上げ塗膜が厚い「顔料仕上げ革」などがあります。

銀磨り革^{ぎんず}：革の銀面を機械的に削って塗装仕上

*1 EUの欧州規格やISO規格では、「leather(革)」という用語は動物由来でない素材では使用できないと規定されている。イタリアでは法令により、動物由来でない素材には「cuoio、pelle(革)」という名称が使えないうえ、違反者は罰金刑の対象となった

*2 ヘアシープは食用肉用の羊の革、ウールシープは羊毛用の羊の革

げを行った革で、表面が均一ですが、革本来の毛穴模様はありません。型押しをして毛穴模様を付けた革もあります。

起毛革：革の銀面を毛羽立てた「ヌバック」、革の肉面側を毛羽立てた「スエード(主に小動物の革から作られる)」、成牛などの床革(後述)を毛羽立てた「ベロア」などがあります。

床革：皮革を2層以上に分割して得られた銀面を持たない下層の革です。表面を銀面調にするため塗装仕上げをしたり、フィルムを貼って仕上げたりします。

●家庭での取り扱いについて

革製品は、仕上げが薄いものほど色落ちしやすく、水などでシミになりやすいため、注意が必要です。仕上げが厚くなると、見た目の革らしさが失われ、合成素材と判別が難しくなりますが取り扱いは容易になります。

お手入れについては、仕上げの方法によって異なるので、まずは、販売店でその方法を聞いてください。使用後にはまずブラシ等で汚れを落とし、クリーナー等を使う場合は、目立たない箇所で試してから使用しましょう。靴などが濡れた場合に、高温で乾燥させると革が収縮する場合があります。また、高温多湿状態で保管するとカビが生えやすく注意が必要です。

最近では、コロナ禍の影響で、アルコール系や塩素系の消毒剤を使う機会が増えています。革製品の中にはそれらに弱いものがありますので、付着しないように注意が必要です。

●合成素材の特徴

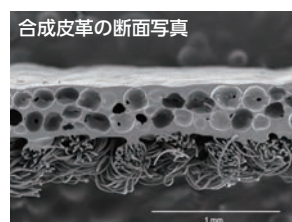
いわゆる合成樹脂(プラスチック)を使った素材です。長所は、革に比較して軽い、お手入れが容易、はっ水性・防水性があり、色落ちがしにくいなどが挙げられます。短所は劣化が早い、燃えやすい、吸放湿性・透湿性が低いなどです。

塩ビレザー：織物・編物に塩化ビニル(PVC)

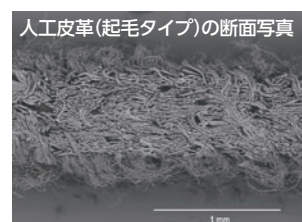
樹脂をコーティングし、エンボス加工*³によって革の外観を与えています。ほかにアクリル樹脂、ポリウレタン樹脂などをコーティングしたものもあります。安価ですが、通気性や透湿性はありません。ドライクリーニングにより、風合いが硬化するので注意が必要です。

人工皮革：超極細繊維からなる特殊不織布*⁴の繊維にポリウレタン樹脂などを積層させ、革の構造と表面模様に類似した「銀付きタイプ」、ポリウレタン樹脂のような高分子を充填して製造した「スエード調タイプ」があります。

合成皮革：織物・編物、特殊不織布以外の不織布にポリウレタン樹脂などをコーティングし、エンボス加工によって革の外観を与えています。多くは、通気性も透湿性もありません。合成皮革、人工皮革ともポリウレタン樹脂は劣化に注意が必要です。



合成皮革の断面写真



人工皮革(起毛タイプ)の断面写真

なお、家庭用品品質表示法では、合成皮革と人工皮革の鑑別が難しいことから、両者とも「合成皮革」と表示します。なお、基材に特殊不織布を用いたものは、「人工皮革」と表示できます。

●家庭での取り扱いについて

簡単な汚れは固く絞った柔らかい布で水拭きをします。汚れが落ちない場合は、専用クリーナーまたは中性洗剤で汚れを落とし、洗剤分を十分に除去して、日陰で乾かしてください。

ただし、他素材と密着して長期間保存すると、癒着する可能性があります。また、火(高熱)のそばに置くと、軟化や変形することがあります。なお、ポリウレタンの特徴については、本連載の第4回(2021年3月号)も参照してください*⁵。

*³ 押し型で強押し、浮き出し(エンボス)模様を作る加工法

*⁴ 極細繊維からなる不織布にポリウレタン樹脂等の高分子を含浸させたもの

*⁵ ウェブ版『国民生活』2021年3月号 http://www.kokusen.go.jp/wko/pdf/wko-202103_05.pdf